

1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入推進

- 不登校やいじめ、児童生徒の自殺が増加する中、児童生徒のメンタルヘルスの悪化や小さなSOS、学級変容などを教職員が察知し、問題が表面化する前から積極的に支援につなげ、未然防止を図ることが必要
- 「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）、「子どもの自殺対策緊急強化プラン」（令和5年6月）等を踏まえ、1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、早期発見、早期支援につなげる「心の健康観察」の全国の学校での実施を目指し、引き続き、通知や各種会議等を通じて、各学校における導入を推進
- 学校のICT環境整備3か年計画（2025～2027年度）における、1人1台端末を活用した児童生徒の学校生活を支援するツール（例：児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、支援するツール）の整備に必要な経費を踏まえて地方財政措置

「心の健康観察」の導入を進めている教育委員会等の声

A教育委員会

- 令和4年4月から域内の全小学校高学年及び中学校で有償アプリを導入
- 市全体での相談件数は、アプリ導入前は教育委員会宛のメール相談のみ実施しており、年間で50件ほど。アプリ導入後は約680件に増加し、いじめの認知件数も導入前約20件⇒導入後約110件と増加した。
- 相談内容はいじめに限らず、自傷行為や自殺念慮に関わるものもある。児童生徒が抱える悩みなどを早期発見が可能になり、早い段階から寄り添った対応が行えるようになっている。

その他教育委員会等から寄せられた声

- これまで、個々の担任教諭の主觀で児童生徒の変化を把握していたが、アプリを活用し、数値で捉えることができるようになったので、ケース会議や児童生徒理解の材料として活用できている。
- 導入校では、不登校の新規発生が前年度の同時期と比較して半数以上減少している。

B教育委員会

- 令和3年4月から、域内の全小中学校でGoogleフォームを活用した「心の健康観察」を実施
- 導入以降いじめの認知件数が増加しており、導入前の令和2年度は約40件⇒導入後の令和3年度は約270件、令和4年度は約420件となっている。
- 個別事案では、長期休業中に、児童生徒から家庭のことで訴えがあり、即座に児童相談所、警察に連絡し、早期対応につなげた事案があった。
- 児童からは、「今は知っておいてもらうだけでよい」といった相談も多く、児童生徒にとって気軽に相談しやすくカウンセリング効果が高いツールと考えている。

「心の健康観察」の導入イメージ（千葉県教育委員会の例）

- 児童生徒へのwebストレスチェックを通じて、心身の状況を把握、担任教諭等にフィードバック
- ストレスチェックの結果は児童生徒や保護者にもフィードバックし、ストレスへの気付きを促す
- 高ストレスの児童生徒を早期発見し、SC・SSW等とも連携しつつ、カウンセリング等を通じて支援
- 必要に応じて、医療機関や児童相談所等の関係機関の支援につなげる

1	最近あなたの気持ちや体の調子についてうかがいます。以下の文を読んで、最も多くあると思うところを1つお選びください。
1	悲しい気分だ。
2	悲しみがなくなる。
3	いろいろなことに自信がない。
4	自分なく心配だ。
2	
1	あなたは、ここ2ヶ月間のうち、下に書いてあるようなことが、どのくらいありましたか。下の文を読んで、最も多くあると思うところを1つお選びください。
2	毎日毎日悲しい気持ちでいる。
3	毎日毎日力を使われた。
4	毎日毎日疲れきった。
5	毎日毎日泣き止まない。
6	毎日毎日泣き止まないように努力する。
3	
1	あなたは、誰かに心配、うがい、うつむきなどいろいろな助けになってくれていると思います。下の問題について、それをどのくらいもらひましたか。下の文を読んで、最も多くあると思うところを1つお選びください。
2	誰かに心配をもらひました。
3	誰かにうがいをもらひました。
4	誰かにうつむきをもらひました。
5	誰かにうがいとうつむきをもらひました。
6	誰かにうがいとうつむきをもらひませんでした。

<児童生徒へのストレスチェック（イメージ）>